

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 1 回	子ども部会	
日時	令和 5 年 4 月 19 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 7 名	市職員 4 名	事務局 4 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り( 名:別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討の内容	※自己紹介、部会長・副部会長選出		
	① 振り返り		
	② 就学説明動画について		
	③ にっしん受診サポートカードについて		
	④ 今年度のとりくみについて		
	⑤ 来年度の検討議案について		
⑥ その他			
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>※自己紹介、部会長、副部会長選出。 今年度の部会長は、A Light 山本さん、副部会長は J Class の岡田さんに決定された。</p> <p>① 振り返り ・昨年度第6回の子ども部会の振り返りを行った。</p> <p>② 就学説明動画について 別紙①参照。</p>		

- ・今年度作成された就学説明動画は、昨年度から大きな変更はない。呼称や電話番号の修正のみ。
- ・周知のために、日進市ホームページに掲載する。見やすいように、定期的に更新し、新着・更新情報に掲載していく予定。
- ・周知先は、別紙①対象児と保育・教育施設+8事業所。
- ・広報は、日進市広報に掲載。

③ 受診サポートカードについて  
別紙②参照。

- ・別紙②-1は配布先一覧。3000部印刷予定。差別防止法のチラシを同封する。
- ・医療機関に送る。広報に掲載。
- ・経過についてアンケートを取る。配布時期を確認。今年度の後半で進捗を確認して決定していく。
- ・前回の議論を受けて修正したものを作成。イラストを変更し、裏面をシンプルにしている。問い合わせは子ども発達支援センター。
- ・周知は、保健衛生会議、歯科保健衛生会議で医療機関向けに周知する予定。社協ホームページの医療機関一覧に掲載するが、掲載を希望されない医療機関は事務局に申し出てもらっている。申出のメ切2週間が過ぎた時点で、受診サポートカードを印刷し、各関係機関や保護者に配布をしていく。印刷や配布は4月以降になる予定。
- ・配布した医療機関一覧は、社共ホームページに掲載。日進市ホームページにもリンクを載せている。内容の更新が必要。

④ 今年度の取り組みについて。

1. 特別支援教育コーディネーター研修

- ・方向性について検討した。
- ・学校教育課から特別支援教育コーディネーターに子ども部会と毎年共催していることを共有した。
- ・今年度の特別支援教育コーディネーターは、15名中4名が交代しており、あとは継続している。
- ・特別支援教育コーディネーターの希望・意見としては、就労の先の支援が見えないこと。教員が事業所を見学する機会が少ないので見学したい、など。
- ・就労部会で毎年やっている就労説明会で、動画として事業所紹介や就労の仕組みの紹介としてまとまっているので、使用させてもらえないか。
- ・6月8日に就労部会主催の福祉的就労説明会があり、そこで事業所紹介動画を用いる予定。利用許可など確認する。
- ・初任者は特にすすく園を見学したいと思う。
- ・開催時期については、次回確認する。

2. 事業所見学バスツアーについて

- ・今年度は市の小型バスが廃止となり、中型しか使えない。駐車できる事業所の確

認必要。

・保護者向けの説明会も行ってた時期もあるがどうするか。就労部会では、福祉的就労説明会を開催し、説明会には事業所も参加して保護者が直接相談できる機会を設けているため、バスツアーは予定していない。子ども部会も、中型バスでの開催が難しいということで、バスツアーは見送る方向で決定。

⑤ 今年度の検討議案について

・不登校の対応について。実際に利用者に不登校の児がいる。(学校には行けな  
いがデイには行ける、不登校になりそうな子がいる、各事業所に見られ増加してい  
る印象があるなど)

・学童で宿題を見てもらえないので、放課後等デイサービスを増やしたいという希  
望があるが、通らないケースがある。結果寝る時間が遅くなることもあり、どうしたら  
よいか悩む。

・サポートブックの適切な利用について。

・週末の過ごし方について。淑徳大学のコミュニティコラボレーションセンター(ボ  
ランティアサークルの統括組織的なところ)が、年2回くらい障害児が参加できるイ  
ベントを開催しているが、協同できないか。愛知学院大など他大学にも類似団体  
があるのでは。事業所でボランティアをしたいという学生の話もあり、学生を事業所  
につなげられないか。

・ハートフレンドについて。ハートフレンドが教育支援センターにもともとあったが、  
今年度新たに校内ハートフレンドとして、北中と西中に設置して、不登校の受け皿  
が増えている。

・通級指導教室について。通級指導教室の人員が拡大された。これまで複数校を  
かけもちしていたのが、各校に一人ずつ担当教員が配置されることになったので、  
通級指導教室の受け皿も増えている。ハートフレンドと、通級指導教室、SSW の連  
携の強化も考えられる。

・学校での個別支援計画や、事業所でのアセスメントシートの書き方について、学  
びたい。

⑥ その他

・R5 年度のスケジュールの確認。

・子育て支援課より、医療的ケア児の対応についての報告。

次回開催日時	令和5年6月21日(水) 10時～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室



日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 2 回	子ども部会	
日時	令和 5 年 6 月 21 日(水) 10時00分～12時00分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8 名	市職員 5 名	事務局 4 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り( 名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討の内容	※自己紹介、部会長・副部会長選出		
	① 振り返り		
	② にっしん受診サポートカードについて		
	③ 特別支援コーディネーター研修について		
	④ 今年度の検討議案		
⑤ その他			
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 振り返り ・第1回の子ども部会の振り返りを行った。</p> <p>② にっしん受診サポートカードについて ・QRコードからのリンクが繋がらないという声があった(工事中のページに飛んでしまう)→確認。 ・サポートカードについては、広報 8 月号に掲載予定。 ・事業所を複数利用している利用者さんについては、重複しないよう上限管理している事業所が渡すなどの対応が必要。</p>		

### ③ 特別支援教育コーディネーター研修について

- ・就労支援をテーマにした研修を行う方針は決定。
- ・開催時期について議論された。→学校の希望と事業所の参加しやすさの双方を考慮し、**9月5日(火)14時**からに決定。
- ・就労支援のテーマで、放デイの事業所が参加する必要があるのかという疑問をもとに議論した。

→→

- ・昨年度はグループワークを行ったことによって事業所と学校の先生の交流がなされ、お互いにとって有意義であったので、今年も取り入れたい。学校としては、かわりが勉強中心になりがちで、将来世の中に出ていくにあたっていくことを見据えた支援を考える点に課題がある。この課題は事業所も同じなのではないか。
  - ・社会に出るために、どんな力が必要かについて考える研修を実施し意見交換をしたいというニーズはある。
  - ・学校では、(学業以外に)人として挨拶をする、掃除をするなど含めて生活全般を指導しており、それが将来につながっていると考えている。事業所としてもどのような取り組みをしているか意見を知りたい。
  - ・特別支援コーディネーターの困り感として、お互いに何をやっているか分からないという点がある。事業所としても感じている共通の困り感。目指していることや、具体的な取り組み、過ごし方など、将来の出口を目指したベクトルで考えていくための、情報共有ができると良い。
  - ・就労継続支援 B 型事業所を利用したい場合は、アセスメント実習に参加しないといけない。実習の際には、現状や課題を把握しながら進路を決定していくために、アセスメントシートがある。何らかの参考にならないか。
  - ・これまでの研修に取り組む中で、困った時にどこに連絡をすれば良いかが分かってきたので、研修の意義はある。
  - ・昨年度実施したアンケートを活かして、グループワークのテーマを決めていくことはできないか。
- 必要とあらば、新たにアンケートを取ることも可能。  
審議続行。

### ④ 今年度の検討議案。

- ・2つ程度にテーマを絞って検討した。
- 1: 発達の課題がある児の不登校のテーマについて。
- ・事業所交流会で不登校の話題が出ていた。改めて、教育支援センター(ハートフレンド)の活動を知りたいと思った。地域で実際に起こっている事例を伺いたい。
- 見学は可能。不登校と発達の課題はつながっていると思われる。
- ・(不登校対応をしている事業所)アーレとハートフレンドの中で困っていることがあれば知りたい。協力できることがあるかもしれない。
- ・不登校ケースを抱えた時に、どこに相談したらいいか分からない。垣根がある。部会を通じて、この垣根を超えていくきっかけが作れたらと思う。
- ・三好特別支援学校にも不登校の相談はある。学校としては不登校そのものには

対応しない方針だが、相談先があるということを図式して整理できると良いと思う。

- ・学校として関わる時に、学校内でチームを作って、教師が家庭訪問したり、SSWや家庭児童相談室と連携を取って取り組んでいる。
- ・青葉学園にも不登校児はいる。どちらかという背景に愛着の課題があるケースが多い。
- ・教育委員会で作成している役割分担表を出すことはできる。

2: 発達の課題がある児の週末の過ごし方への支援について

- ・愛知淑徳大学 CCC (コミュニティ・コラボレーション・センター) の代表者に、この件について伝えたところ積極的に受け取ってくれた。CCC 内に複数のボランティアサークルがあるので、子ども部会とコラボレーションできると良い、ただし学生に交通費はかかる、大学内のイベントであれば交通費はかからない、など意見をもらった。
- ・日進市と連携協定として、愛知淑徳大学を足掛かりに広げていけるとよい。子育て支援からから、淑徳大学の CCC の窓口で連絡を取ることはできる。
- ・CCC 代表者に、子ども部会に参加してもらい、一緒に話ができるとよいのではないか。→調整して働きかける予定。

⑤ その他

- ・特になし。

次回開催日時	令和 5 年 7 月 13 日(水) 10 時～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 3 回	子ども部会	
日時	令和 5 年 7 月 13 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 7 名	市職員 4 名	事務局 4 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り( 名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討の内容	※自己紹介、部会長・副部会長選出		
	① 振り返り		
	② 特別支援教育コーディネーター研修について		
	③ 今年度の検討議案		
④ その他			
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回の子ども部会の振り返りを行った。</li> </ul> <p>② 特別支援教育コーディネーター研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日:令和 5 年 9 月 5 日(火)午後 2 時～中央福祉センター多機能室</li> <li>・就労部会で作成した動画を視聴して協議した。→視聴決定</li> <li>・学校の先生方は、発達支援センター(障害者支援センタ～)＝すくすく園と認識して、就学後の児への対応も行っていることを知らないかもしれない。</li> <li>・就職するときに、どんな能力が必要かがわからない。</li> <li>・研修で資料として、就労アセスメント評価表を配布できるのではないか。参考になると思う。</li> </ul>		

- ・教師に対して将来をイメージして取り組んでいるかを、聞いてみるとよいのでは。
  - ・特別支援教育 Co.担当に行うアンケートを事業所にも行って、研修の資料にしたらいのでは。
  - ・前回の研修では、グループワークで意見がたくさん出たので、実態を知ることができた。今回、就労にまつわる動画をもとに、先生方も事業所のことを知りたいと思う。それを踏まえて、現在それぞれの立場で取り組んでいることを聞くのはどうか。
  - ・将来社会に出ていくことを踏まえて学校で取り組んでいることを聞きたい。
  - ・福祉制度の力を借りることを学校の先生方が知らないかもしれないので、そういう道もあることを知ってもらおう。
  - ・動画を見た後で、質問する時間がある方がよい。
- 特別支援教育 Co.担当、事業所両方に、将来を見据えた支援について取り組んでいることや困り感をアンケートで聞いて、その結果をもとに、グループでディスカッションする。
- 詳細は、担当で改めて打ち合わせする。

### ③ 今年度の検討事案

不登校について。

資料:日進市内小中学校 特別支援教育に関わる相談・支援体制(抜粋)

——来年度、校内ハートフレンドが日中、東中にもできる。

- ・不登校対応において、見立てが重要。原因がわかるのに時間がかかるもの。
- ・現在、市内の不登校は120人くらい。
- ・訪問支援(ホームフレンド)もある。
- ・支援体制がわからない。子ども部会として何ができるかを考えた時に、たとえば放課後等デイサービスで困った時に、どこに相談したらいいのか、学校なのか、教頭なのかなどが分かるといい。
- ・保育園でも不登校(園)はある。保護者が送るのをやめることがある。
- ・不登校児で放課後等デイサービスを利用することもあるが、つられる問題がある。
- ・支援者側が体制を整えることが大切。日進市として支援の窓口や連携の仕方を図式化するなど整理していくと、事業所から学校に発信もできるのではないかと。図式化できると良い。まず教頭に連絡するのが良いのか?など。学校がどういう連携をとっているのかがわかると、動きやすい。
- ・受給者証は、療育手帳などがないと取得できないと思っている教師もいる。まだ理解されていないこともあるのではないかと。

週末の過ごし方について

- ・愛知淑徳大学CCCの方の部会への出席は了承を得た。次回参加していただけるよう調整する。

### ④ その他

	・チャレンジド夏祭り、9/2、市民会館
次回開催日時	令和5年10月18日(水) 10時～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 4 回	子ども部会	
日時	令和 5 年 10 月 18 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8 名	市職員 4 名	事務局 4 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り( 名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討の内容	① 振り返り		
	② 週末の過ごし方の支援について		
	③ 特別支援教育コーディネーター研修について		
	④ 不登校の支援について		
	⑤ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 第3回の子ども部会の振り返りを行った。</p> <p>② 週末の過ごし方の支援について 愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーション・センター秋田有加里氏を招いて話を伺った。 CCCは2009年発足。ポレポレとのつながりがあった。淑徳大学生がきることや学べることがあるのではと、ボランティアを募集し、授業とボランティアを併せた形で始まった。ボランティア団体が多数発足し、ポレポレ、じゃんぐるじむ、あいあいなどと連携している(あいあいはコロナで休止中)。平日の一定時間を過ごすことや土日のイベントを企画するようにもなった。 11月4日にわくわくフェスタ(大学内) 11月19日に運動会(香久山福祉会館)。</p>		

福祉系、心理系、教育系の学生が中心。周知に関しては、1対1で向かい合うことが多いため、関係性が深いところ中心に限定的に周知している。しかし今回を機に広げたいという思いもある。コロナで地域に出ることが減っている。週末に、児童館で少しずつイベントを行っている。保護者らの休憩時間として預けてほしいと思っている。

Q:地域の学校に行くことは？ A:相野山小に行ったことはある。授業を調整し年1、2回可能だった。ボランティアでも企画すれば何かできると思う。

Q:土日の参加状況は？ A:障害児向けと健常児向けがあり、定員は25名前後。

Q:親子参加イベントなら学生の負担も少なく、あってもよいのでは？

Q:大学での開催は可能か？ A:施設が空いていれば大丈夫。急に何回も開催するのは難しいが。

Q:CCCとの関係は？ A:CCCにはボランティアをしたい子が登録している。その中でボランティア団体が実行する場合もあれば、単発の時もある。基本的には、学生が継続していくことを促したいと考えている。登録者は1000人くらい。団体が直接にやり取りするイベントもある。

Q:外出先がない家族への支援を考えると、いずれは他大学も一緒にできるとよいと思うが。 A:来年度、新しいイベントであれば声掛けはできる。

Q:ボランティアとして無理せずに行きたいと思うので、今あるものをどう少しずつ広げるとか、周知の仕方を工夫したい。子どもたちを知ってもらうことが大事だし、事業所にも足を運んでほしい。

Q:学校にも声をかけて、共有する場になると良い。教員も市内の様々な立場を担わないといけないので、連携することで勉強になる。

Q:事業所とのつながりは広がるか？ A:どの事業所を選ぶかは学生次第だが、情報開示は可能。

Q:事業所交流会にメーリングリストがあるので、メールでの共有はできると思う。

Q:ヘルピーネットにはあげられないか？

A:団体ごとのカラーがあり、一気に広げていくのは適さないと思われる。

Q:子ども部会から、事業所交流会、各放課後等デイサービスと、段階を踏んで広げていくのが良いのでは。 A:連絡を取りあうことは可能。学生も子ども部会の存在を知ってもらうのが良いと思う。

### ③ 特別支援教育コーディネーター研修について

アンケート(別紙)をもとに振り返った。

- ・学校と関わるきっかけとなっている。
- ・学校の先生としっかり話す機会を持てたことが貴重だった。先生も悩んでいることが分かった。
- ・前回のグループワークではテーマが定まらない感じがあったが、今回は2回目ということもあってか、テーマに沿って話しこめた感じがある。
- ・自分の立場のみから考えがちだが、それぞれの立場があることが分かる。
- ・来年も継続していく予定。

・運営の仕方について。子ども部会の事業でもあるので、準備に部会員がどうかかわるか、来年以降検討したい。

④ 不登校の支援について。

各事業所から、実際に不登校・不登校傾向の児童生徒の現状が語られた。ほとんどの事業所が、なんらかの不登校傾向も含む児とのかかわりが見られた。

・学校を休んだ時に、放課後等デイサービスの利用を認めると、他児への影響が見られるので対応方針が難しい。

・発達支援センターと連携し相談しながら関わっている。

・SSWにも関わってもらっている。

・担任とのかかわりは、挨拶程度になりがち。

・家族(母など)との関係の影響を感じる。

・生活自体が乱れている。

・いったん放課後等デイサービスを卒業したが、不登校を機に戻ってくることもある。

など点が話題として挙げられた。

また日進市として不登校対応を考えるときの軸になるのは一体どこ/何か?という疑問が呈された(現状では明確な軸となりえる部署はないかもしれない)。

⑤ その他

特になし。

次回開催日時

令和5年12月20日(水) 10時～

次回会場

障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 5 回	子ども部会	
日時	令和 5 年 12 月 20 日 (水) 10時00分～12時00分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8 名	市職員 3 名	事務局 3 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り( 名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討の内容	① 振り返り		
	② 週末の過ごし方の支援について		
	③ 不登校の支援について		
	④ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 第4回の子ども部会の振り返りを行った。</p> <p>② 週末の過ごし方の支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジド夏祭りについて</li> </ul> <p>もともと子ども部会から派生した企画で、発端は週末支援だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経緯は、H23 に障害児を抱える保護者が休日に外出できないという話題があり、部会で楽しい思い出を作る支援をするという考えから開始。地域の祭りにも参加できないという声も踏まえ、祭りにする案が出る。当時、じゃんぐるじむでキャンプ等の企画を行うなど事業所が休日の企画を行っていた。そのような事業所の企画の中にチャレンジド夏祭りを組み込むという流れだった。しかし、現状はチャレンジド夏祭りだけが残っている状況。参加事業所も減っている。 <p>放デイ・児発自体は増えているし、土日に行く事業所も出てきている。ただし、保護者の週末の過ごせる場所を求めるニーズは変わっていない。</p> </li></ul>		

大学も参加していたが、コロナで休止が続き、引継ぎがない中、今回は不参加の大学も出ている。

しかし実際に開催した感想は、多くの方に楽しんでもらえた。

ポイント

- ・来年も開催していくのか？代理案はあるのか？規模を変えるか？
- ・予算が22万あるが、10万余っている。適切な使い方は？
- ・開催時期(今年度9月2日)は適切か。

→意見

- ・事業所は夏休み直後だと準備が難しい。
- ・チラシが遅かったという声がある。
- ・会議の負担。Onlineだと参加しやすいという声もある。  
→実際に動画で報告もしている。実行委員の負担軽減のため考えたい。
- ・来年度の会場はすでに押さえてある。  
→あるかないかが分からず参加できなかったことはあるが、分かっているのであれば年間計画に組み込むことができる。
- ・会計業務の負担も大きかった。
- ・かつては屋外で行った時期もある。
- ・週末の過ごし方というニーズに則ると、単発ではなく複数回行うイベントを考えた方が良いのでは。
- ・事業所がもともと行っているイベントに参加することはできないか？  
→事業所の規模が小さいので、外部に入ってもらうことが難しい。
- ・会場を変えてはどうか？→センター大会議室ならば室内で使える。  
→学生にイベントができる場所として提供するのはどうか？  
→事業所が企画から立ち上げるのは負担だが、学生ボランティアの企画に参加した時は、参加しやすかった経験がある。
- ・他事業所にもアンケートを取って意見を集めたい。
- ・CCCに、週末に学生がイベントを行うための場所提供とそのための部会の協力ができるとい企画を投げてみて、反応をうかがってみてはどうか。  
→次回までにCCCに問いかけてみる。

③ 不登校の支援について。

- ・日進市で不登校支援の軸となる場所はどこか？という問題意識がある。
- ・子ども部会として何ができるか？という問題もある。
- ・事業所にも不登校の子はいるのを知って、学校と事業所をつなげられることは増えている実感がある。
- ・学校と事業所の情報交換をしていくところから始めるのはどうか。
- ・ハートフレンドについて。——校内ハートフレンドは、来年は4中学校すべてに配置される。38W、9-16時。指導者が一人いて、担任も時々入る体制。ただし、特別なプログラムがあるという誤解もあったので、あくまで居場所提供が第一目的としながら、運営をしつつ思考錯誤していく予定。

- ・低学年のハートフレンド利用者が増えており、学校復帰が課題になっている。
- ・保健室登校——ないわけではないが、受け入れの余裕がないのが現状。
- ・空き教室も少ないのが現状。
- ・通級は全校に配置されているので、併用する児童・生徒もいる。
- ・統括SSWに情報が入ると、各校に情報共有ができるようになってきている。(——子ども発達支援センターとしても統括SSWとの連携が活発になっている実感がある)。
- ・相談支援体制を、放課後等デイサービスに周知できると良いのではないか。
- ・子ども家庭室も窓口の一つになっている。
- ・心の教室相談員は？——あくまで児童のみが対象。学生が入れ替わりで担当している。
- ・子ども部会として対応するのは、障害のある児童生徒の不登校だと思うが、その実態は把握できているのか？——センターとしては、保護者からの報告がある範囲内であれば把握できている。——学校としては担任がすべて把握している。
- ・支援者向けの、障害児における不登校児の連携マップを作っていくのが良いのではないか。——次回に向けて試作品を作る。

#### ④ その他

##### 医療的ケア児について

- ・(NICU 等のある)医療機関からの連絡が市町村に入りやすくするため、あいち医療的ケア児支援センターから医療的ケア児支援に関する市町村窓口の一元化への協力依頼があり、日進市は子育て支援課療育支援係を窓口として報告した。
- ・その後、名市大病院等から医療的ケア児の退院カンファレンスの際に市の医療的ケア児等コーディネーター(日進市は:子ども発達支援センター相談員 2名)や保健師を派遣してほしいと連絡が子育て支援課に入るようになっており、医療的ケア児等コーディネーター等に退院カンファレンスに参加していただく流れとなっている。
- ・10月末に市関係課+医療的ケア児等コーディネーターにより医療的ケア児支援に関する打ち合わせ会開催し、各課での事業の状況や現在把握している医療的ケア児 11名の情報交換を行った。

子育て支援課:R4から引き続き学校等訪問看護事業を実施。R4から1名同じ児が事業を利用中

学校教育課:子育て支援課の学校等訪問看護事業を利用している児以外に対象児なし。来年度もなしの予定。

こども課:新ラ田保育園を医療的ケア児の拠点園として常勤看護師1名配置している。来年度は医療的ケア児1名の利用申し込みがある予定。

	<p>・愛知県医療的ケア児支援センターからの依頼により、市の医療的ケア児に係る情報(医療的ケアの種類、日中過ごす場所での医療的ケア実施者等)を情報共有。保護者による情報提供同意が得られたもののみ報告した(氏名・住所の報告なし)。</p> <p>・医療的ケア児支援に関する各研修に子育て支援課及び医療的ケア児等コーディネーターで参加した。日進市としては医療的ケア児等コーディネーターは子ども発達支援センターの相談員で報告しているが、子育て支援課としては関係各課の職員にも医療的ケア児等コーディネーター養成研修を受講していただきたいと思っている。今後健康課や学校教育課にも研修参加に協力していただきたい(こども課受講済み)。</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和6年2月21日(水) 10時～</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 6 回	子ども部会	
日時	令和 6 年 2 月 21 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 6 名	市職員 5 名	事務局 3 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り( 名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討の内容	① 振り返り		
	② 週末の過ごし方の支援について		
	③ 不登校の支援について		
	④ 就学説明動画について		
	⑤ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 第5回の子ども部会の振り返りを行った。</p> <p>② 週末の過ごし方の支援について          チャレンジド夏祭りについて、事業所にアンケートを行った。積極的な意見は特に見られなかった。開催時期について、現状では準備が難しいとのことであった。次回に関しては R6 年 9 月 7 日に決定しているが、再来年に関しては 1 週間後(R7 年 9 月 13 日)に変更するように、予約の希望を出している。伝達には Online を導入していく予定。実行委員長がなかなか決まらない現状。そもそも実行委員会の制度が適切かどうかについて検討している。</p> <p>愛知淑徳大学、CCC の秋田さんに伺いを立て、親子参加のイベントの企画を学生サークルで企画できるかどうか聞いた。その結果、場所の提供はありがたいとのこと。子ども福祉学科の学生が参加できるかもしれない、ただし大学の規定で、保</p>		

育士の参加が必要とのこと。それら条件も含めて前向きに検討したいとのこと。

周知の仕方はどうするか。未就学児中心か。ニーズは児童発達支援の方が強いのではないか。三好特別支援学校に通っている方も、必要としているかもしれない。放課後等デイサービス利用者の方も、土日が過ごせていると言っても実態としてはYouTubeなど動画を見せているだけになるなど、過ごし方として困っているのは、すべての世代にわたっているのではないか。何がニーズになっているか検討が必要。

学生さんにも子ども部会に参加してもらって、意見交換する会があってもよいのではないか。

どういう流れで募集していくかを、打合せの中で話していけるといい。

次年度の中で、1回くらいは企画が実現できるといい。

次年度4月に、CCCの秋田さんに子ども部会に来てもらって打合せができると良いのでは。→日程調整をする。

### ③ 不登校の支援について。

福祉的不登校支援マップを学校教育課協力のもとに試作版を作っている。

SSWに見てもらったが、分かりやすいとの感想であった。

病院と椋山女学園大学の支援は、保護者との関係が近いと思われるので、保護者の近くに配置した方が良いのでは。

ハートフレンドは行政に近い。

問い合わせの仕方が分かるとより良い。

相関図としては分かるが、困ったときに連絡ルートについてポイントが分かるようになることが良いのでは。→ケースによってつながり先が違うので一般的な明記は難しいのでは。

それぞれの部署が何をしているのかが分かるようにしてほしい。

要となる部署はどこなのか。統括SSWか子ども発達支援センターがメインになるのか。→情報集約の起点として学校教育課にまず連絡が欲しい。

ケース会議が重要になってくると思われる。対応においては、それぞれのケースに対してアセスメントをしっかりして対応を考えたい。

問い合わせルートとして、たとえば様子を聞きたいだけの場合は学校に問い合わせれば良いと思われるが、たとえば保護者の不信感が強い場合は話しづらいことがある場合もある。

学校としても、内部だけで抱えがちな傾向があり、放課後等デイサービスにつながりづらい現状はあるかもしれない。現時点では、連携のノウハウがないかもしれない。

研修で模擬ケース会議をしてみると良いのではないか。

連携・連絡する際の、気に留めておく大事なポイントが分かるようにしてあると良いのではないか。→それもケースによって異なるので、一般的な表記は難しい。

学校の方から放課後等デイサービスを観に行くことはできるか。→保護者の同意があれば可能。

支援マップに合わせて、それぞれの部署の役割を明記した一覧表があるとよいのではないか。→裏面に記載する。

連絡先のルートを決めてしまうということではなく、その事例ごとに考えていけるためのものにしていくのが良いと思う。

支援マップ内の矢印は、1つずつ書いていかななくても良いのでは。→最終的にケース会議が中心になるということが分かることが大事ではないか。→矢印は簡素化して、教育・福祉・行政が連携していくということが大まかに分かる形になるようにすると見やすくなるのではないか。→意見をふまえて修正する。

#### ④ 就学説明動画について

以前作成してから数年が経っているので、音声は取り直す予定。

市役所のHPに掲載し、R6年4月～R7年3月まで掲載予定。

R7年に福祉サービスを利用している次年度就学する予定の児の保護者に案内する。各家庭に個別送付し、幼稚園、保育園、児童発達支援事業所、広報で周知する。

現在年中の児で児童発達支援利用者は84人いる(昨年より30人ほど多い)。

迷っている保護者も、学校(学校教育課)につないでほしい。特別支援学校の選択の時期は7月まで支援級の選択の時期は10月までが目安になる。それを踏まえて保護者に学校(学校教育課)に連絡するよう伝えてほしい。学校見学は何度でもできる。

#### ⑤ その他

事業所交流会について。現状とアンケート結果を踏まえて。

1回目は参加が少なかったが、3回目に虐待研修を行ったところ40名ほどの参加が多かった。事業所からお金を徴収して講師を呼びたいという意見も多数ある。事業所それぞれに虐待研修が義務化されているものもある。→虐待研修は、自立支援協議会権利擁護部会で今年度2回開催しており、参加者が少ない現状もある。すでに虐待に関する研修機会があるので、新たに有償で研修を作るより、現在ある研修を利用してほしい。研修時期・時間帯などニーズに合わせて検討したい。また動画配信を行うことも検討したい。

事業所交流会で金銭徴収をする場合は、規約などが必要になるのではないかと(トラブル回避のために)。現在規約はないので、規約作成など事業所の負担が増えるのではないかと。

有償で講師を呼ぶことを検討するのであれば、虐待以外のテーマで呼ぶ方よいのでは。

事業所交流会は子ども部会から発生したものである。

事業所側からは、継続したいというニーズがあるということが分かったので、これを機に話し合いが持てるとよい。→今回の議論を、事業所交流会に投げかけて意見を集めるのが良い。→事例検討会を行うという案でも、参加希望者はあると思う。

	日程の組み方が大事だと思う。→R6年度の日程はすでに決まっている。1回目は6月12日。
次回開催日時	令和6年4月17日(水) 10時～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室